

新しい左京区基本計画づくり

ニュースレター 第10号



発行日 平成22年8月25日
発行者 左京区役所区民部総務課
Tel 771-4235

新左京区基本計画 素案へのご意見ありがとうございました。

左京区役所では、平成13年に策定した左京区基本計画が平成22年に計画期間を終了するため、新左京区基本計画の策定に取り組んでいます。

策定に向けては、「左京区住民円卓会議」と「次代の左京まちづくり会議」において議論を重ねてきました。また、この会議の他に、広く区民の皆様からご意見をお聞きするため、平成22年7月に意見募集を実施しました。ご協力いただきました皆様方には御礼申し上げます。この度、意見募集の結果の概要がまとまりましたのでお知らせします。

1 意見募集の概要

募集方法	左京区役所，岩倉・八瀬・大原・静市・花脊・久多出張所等での配架。 左京区役所ホームページに掲載。市政協力委員等への送付等		
募集期間	平成22年7月1日～7月31日		
回答数	74人から232件のご意見をいただきました。 (郵送，FAX等 69人・ホームページ 5人)		
	・男女構成	男性 32人 (43.2%) 女性 35人 (47.3%) 無回答 7人 (9.5%)	
	・年齢構成	20歳未満 0人 (0.0%)， 30歳代 5人 (6.8%)， 50歳代 9人 (12.2%)， 70歳代 18人 (24.3%)， 無回答 7人 (9.5%)	20歳代 0人 (0.0%)， 40歳代 9人 (12.2%)， 60歳代 23人 (31.1%)， 80歳以上 3人 (4.1%)

2 意見募集の結果 (概要)

〔質問項目〕

- ◆左京区にくらす人々の「自然を愛で，歴史を学び，文化を楽しむ『豊かなところ』を大切に伝えます」という目標について，ご意見をお聞かせください。

〔主なご意見〕

- 左京区は身近なところに「豊かなところ」を育てる環境があり，目標として賛同する。
- 自分の足で歩いて自然を感じ，歴史や文化を楽しみたくなるような目標である。
- 左京区は「豊かなところ」を持った人が多い。左京区らしい目標だと思う。
- 左京区は緑が多く，文化にも恵まれており，住民としても幸せである。
- 左京区は自然に恵まれ，豊かな歴史があらわれている。その中で生活している私たちは，この魅力を次の世代へとしっかり伝えていく必要がある。
- 「豊かなところ」を持ってない現在の世の中を変えていくようなまちづくりを，この左京区から率先して実現していくことが求められている。
- 左京区民が実感できる目標となることを期待する。

- 目標の考え方はよいが、具体策があまり見えてこない。区民が共通認識をもって目標に取り組めるようにすれば素晴らしいと思う。
- 左京区の伝統、文化、自然環境を次世代に引き継ぐためには、少子高齢化対策が最優先の課題だと思う。地域が協力して交流の場を増やすことも重要である。
- 左京区は自然、歴史、文化面において優れているが、区民にはその自覚がない。左京区の魅力をもっと広く知ってもらうことで、「豊かなところ」を大切に伝える認識が生まれてくるはずである。
- 自然、歴史、文化があっても、そこに住む人の交流がなければ「豊かなところ」は成長しないのではないか。
- 基本計画の目標として、「ところ」にまで踏み込む必要はないのではないか。

〔まとめ〕目標の大きな方向性としてはおおむね問題ないとの評価とあわせて、目標の達成に向けては、区民の交流、区民が左京区の魅力を認識すること、具体策を示すこと等が課題であるとのこと意見をいただきました。また、目標としては抽象的である、ところに関するところは目標になじまない等のご意見もありました。

〔質問項目〕

- ◆「取組指針1～美しい自然のまちづくり～」、「取組指針2～歴史・文化・学問のまちづくり～」、「取組指針3～ひとにやさしい温もりのまちづくり～」について、ご意見をお聞かせください。

〔主なご意見〕

「取組指針1～美しい自然のまちづくり～」について

- 美しい自然を失わないことこそが最高の財産である。
- 北部地域での野菜作りを通じて、南北の人の交流を進めると良いのではないか。
- いつまでも住み続けられる美しいまちにしたい。
- 主要な道路に愛称をつけることで、住民がその道路に親しみを持つことができ、道路の清掃やまち全体での美化活動を進められるのではないか。
- ゴミ問題への取組については、住民だけでなく事業者や観光客の協力も必要である。
- 学生の自転車利用のマナーが悪く、危険である。
- 駅周辺の違法駐輪が特にひどい。もう少し駐輪場を確保する必要がある。
- 自転車が車道や歩道を走るの危険なので、自転車専用レーンを設けてほしい。
- 道路整備よりもまちの緑化を進めてほしい。
- 電線類地中化や道路のバリアフリー化を進めることで、道路が広くなり、事故が減って、景観もよくなる。
- 景観保護のために、建物の外観規制を厳しくしてほしい。
- 幹線道路周辺だけでも規制を緩和し、大型商業施設を誘致しやすくしてほしい。
- 左京区には花折断層が縦走しているので、地域の防災にもっと力を入れてほしい。

〔まとめ〕日常生活に関わる「まちの美化」や「歩きやすいまち」についてのご意見を多くいただきました。特に、自転車等の利用マナーが悪い、駐輪場を整備してほしい等の要望、ごみ出しのマナー等に対するご意見が目立ちました。また、道路整備とともにまちの緑化を望む声をいただきました。

「取組指針2～歴史・文化・学問のまちづくり～」について

- 左京区の歴史は本当に素晴らしいが、それを知らない区民も多い。まずは区民が自分の目で見てよさを知り、勉強し、よくしていく気持ちを持つべきである。
- 伝統行事の紹介や参加の呼びかけをもっと大々的に行うべきである。
- 左京区の自然、文化財や見所を案内する観光ボランティアが少ないのではないか。
- 左京区に住んでいるおかげで、地元の文化・歴史を学ぶことができ、数多くの催事や伝統行事に触れることができる。
- 学生だけでなく、高齢者も低予算で文化・芸術を学べるようにしてほしい。
- 文化は住民が守り育てたものである。文化を観光用としてまちづくりを進めるのではなく、住民の思いに沿ったまちづくりをしてほしい。
- 世界に誇れる技術や特許を、地元企業と大学の協力で作り出すための環境整備が必要である。また、農林業や伝統産業等の後継者を大学で養成していくことも重要である。
- 大学では色々な取組が行われているようだが、一般区民には知られていないことが多い。地域の回覧版等を通して、高齢者にも分かりやすく情報を伝えるべきだ。
- 現在の区役所の移転後に、庁舎を文化、芸術の情報発信拠点にしてほしい。

【まとめ】左京区には素晴らしい歴史、文化があることを実感されているとのご意見が多く見られました。そして、この左京区の魅力をもっと多くの人に学んでほしいとのご意見もありました。「大学のまち」については、大学と地域の交流、情報の共有を求めるご意見が目立ちました。

「取組指針3～ひとにやさしい温もりのまちづくり～」について

- 誰もが安心、安全に暮らせる地域社会をつくってほしい。そのために、子どもやお年寄りへの見守り活動や声かけに積極的にかかわっていききたい。
- 子どもに野外活動を体験させ、自然の流れの中で考える時間を作ることが重要である。
- 子どもだけでなく母親を守る取組も必要だと思う。母親達が交流し、子育てのストレスを上手に発散できる場づくりを進めてほしい。
- 高齢者が自主的にボランティアグループを作り、活動できるようサポートしてほしい。
- 高齢者のためのまちの設備が不十分であるので、もっと充実させてほしい。
- 地域の人々が集まる場所がない。情報を共有し、意見を出し合う場が必要である。
- 自分達でまちづくりを進め、まちを守ることが大切である。区民が左京区を大切に思い、やりがいを持てるような、地域での組織づくりを、行政からも働きかけてほしい。
- 区民はもっと左京区の良さを知り、住民参加型のまちづくりをしていくことが大切である。
- 高齢者・障害者が地域の活動に気軽に参加できるような環境づくりが大切である。
- 北部の小学校跡地に、留学生や単身赴任者の住める施設を設置してはどうか。
- 左京区の南部地域は高齢者も多く、人口が集中している。区役所が移転すると遠くて不便になるので、現在の庁舎を支所などとして残してほしい。

【まとめ】こどもや高齢者が安心して暮らせるまちづくりや、地域で気軽に交流できる環境づくりを求めるご意見が多く寄せられました。また、左京区役所移転後、現在の庁舎を支所として残すべき等のご意見もありました。

〔質問項目〕

- ◆この先10年の左京区のまちづくりの中で、あなた自身がもっと良くしてほしいと思うこと、または、あなた自身がかかわっていききたいことについて、ご意見をお聞かせください。

〔主なご意見〕

- 若者が住み続けられる、魅力ある左京区になってほしい。
- 岡崎周辺には平安神宮、動物園、京都会館、美術館、疏水をはじめとして魅力的な施設がたくさんあるので、各施設を連携して有効活用を図り、区民だけでなく、多くの人が歴史、文化、学問に親しめるエリアにしてほしい。
- 区民が歴史、文化、学問を身近に感じられるような取組にかかわっていききたい。

〔まとめ〕 若者が住みやすいまちづくり、左京区の歴史・文化・学問を生かしたまちづくり、自らも様々な取組に参加したい等のご意見をいただきました。

〔質問項目〕

- ◆その他、計画全般について、ご意見があれば、お聞かせください。

〔主なご意見〕

- これまでの行政主体の計画から、区民や事業者、大学等の協働で取り組む幅広い計画策定になったことを評価する。
- 左京区住民円卓会議での意見が計画に反映されており、うれしい。
- 区民以外の外部の人々から幅広い意見を取り込んでいくことで、より良いまちづくりに向けた計画ができると思う。
- 若者が働くことへの希望が持てるような提案を積極的に取り入れてほしい。
- 子どもを育み、若者を見守る視点に立ち、子どもや若者が積極的に参加できる政策を立案し、実践してほしい。
- 自然、歴史、文化を守るだけでなく、次世代の左京区を育てていくことに重点を置いて計画に取り組むべきである。
- アンケートやワークショップで区民の意見を聞くだけでなく、もっと区民のマンパワーを利用してほしい。
- 今回の基本計画は具体性に乏しく、抽象的である。
- 個人ができること、協働すること、行政がすることという分け方でない基本計画をつくることが大事ではないか。
- 左京区は広い面積を有し、各地域によりかなりの独特の特徴がある。各地域の目標を取り上げ、左京区全体の視野で考える必要がある。

〔まとめ〕 新左京区基本計画の策定にあたっては、現在の基本計画の総括を踏まえ、幅広く区民の意見を聞きながら進めるべきとのご意見をいただきました。また、次世代の左京区を担う子どもや若者の視点や地域別の視野を盛り込むべき、計画内容を実行することが重要である等、様々なご意見がありました。

数多くの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。